

傷付いた心の栄養に



完成した作品集を手にする佐藤さん
仙台市青葉区の自宅アトリエ

筋骨隆々のいかめしい仁王像

や陽光にきらめく三陸の海―。

河北美術展顧問で日展会友の洋

画家佐藤幸子さん(79)「仙台市

青葉区」が、60年を越える画業

をまとめた作品集を発行した。

大胆な筆遣いで描き上げたエネ

ルギッシュな作品が並び、佐藤

さんは「東日本大震災で傷付い

た子どもたちを励ましたい」と

願う。

カラー166ページの作品集に

は、中学2年の時に古里宮城県

女川町の海を描いた水彩画のほ

か、1961年から今年に制作

した油彩画やデッサン計128

点を収録。恩師で仙台市名誉市

民の洋画家、故杉村惇さんのメ

ッセージや取材時の写真も掲載

した。

鋭い眼光と荘厳なたたずまい

が見る者を圧する「増長天」は、

河北美術展(1988年)で河

北賞を受賞。燃えさかるような

色彩とペインティングナイフで

削った画肌が重厚さを醸す。佐

藤さんは「憤怒の中にも慈愛が

あり、深い精神性を感じる」と

仏像の魅力を語る。

松島の海の朝景をダイナミッ

クに描いた「扶桑第一照耀松島」

は2019年、日展の22回目の

入選作。群青に染まる黎明の海

を照らす曙光に、活力と希望が

みなぎる。「自然は震災を乗り

越えて自力で再生していく。海

への慈しみや愛情が深くなっ

た」と言う。

佐藤さんは毎年、女川町の小

中学生にクリスマスカードを贈

るなど支援を続けている。「震

災で両親を亡くした子もいる。

古里や世の中を支えるのは子ど

もたち。絵を心の栄養に、夢に

向かって力強く生きてほしい」

と思いを込める。

作品集は500部発行。連絡

先は入間IRUMA Art部

022(223)3276。